

3・20平和のための World Action 徳島 アピール(案)

「3・20平和のための World Action 徳島」に賛同した私たちは、イラクに対してアメリカを中心とした大国のエゴによって引き起こされた戦争に対し、「終わらせようイラク占領、撤退させよう自衛隊」のスローガンの下、本日ここに集いました。

事実無根であった大量破壊兵器を理由に、アメリカの暴挙ともいえるイラク戦争が始まってから、今日で6年が経ちます。昨年4月に名古屋高等裁判所において「イラクへの自衛隊派遣が憲法違反である」との判決後、アメリカのイラク政策転換に伴い自衛隊が戦場であるイラクから1人の死者を出すことなく撤退できたことは不幸中の幸いでした。しかし、いったん自衛隊を使って加担したイラクの泥沼化した情勢に対して日本がどのように責任を取るのかの説明は全くなされていないことに不信感を持たざるを得ません。さらにはイラク派兵同様、なんの問題解決の道筋もないまま、海賊対策の名の下、無能な政策による自衛隊ソマリア派遣を私たちは断じて許すことはできません。

イラク戦争と軍事的に一体であるアフガニスタンへの支援が今後アメリカの要請によって強化されることが予測されるなか、イラクと同じ轍を踏むことがないよう、司法の判決を国家権力の側が誠意をもって重く受け止め、遵守することを強く求めます。

また、現在でも継続されているインド洋における多国籍軍への給油活動は憲法第九条によって積み重ねられてきた日本の中立性をしめす国益を大きく害するものです。

3・20平和のための World Action 徳島に結集した私たちは、これ以上自衛隊が国益を損なう派遣を重ね、国際社会での日本の信用を失墜させないよう、憲法九条を積極的に活用し、あらゆる紛争を解決し防止できる平和な国際社会に向け、今後もあらゆる地域で活動することを確認し、アピールとします。

2009年3月20日

3・20平和のための World Action 徳島 参加者一同